

VOICE

Volunteers of International Communication & Exchange



VOL.69

発行日 2019年3月29日

発行 熊本県国際協会

〒862-8570

熊本市中央区水前寺6丁目18-1

熊本県国際課内

T E L 096-385-4488

F A X 096-277-7005

kuma-koku@cup.ocn.ne.jp

<http://www.kuma-koku.jp/>



1

協会活動報告

- 創立30周年記念講演会及び感謝祭開催報告
- 「第25回熊本国際交流祭典」開催報告
- 肥後っ子わくわく地球教室を開催しました！

2

人物紹介

- 熊本県国際交流員リリー・マクダーモット

3

トピックス

- 第26回「アフリカの子どもの日」in Kumamoto — 熊本県ユニセフ協会
- 繋がりを大切に ————— 熊本県青年海外協力協会
- 「第11回日米協会国際シンポジウム熊本大会」 ————— 熊本日米協会
- 地域の国際交流～防災ワールドカフェ I N合志～ ————— 合志市
- 2018年度「能楽ワークショップ」について ————— 熊本ユネスコ協会

4

お知らせ

- 国際相談コーナーについて

5

会員団体行事予定



第25回国際交流祭典の様子

◆ 創立30周年記念講演会及び感謝祭開催報告

本協会は、県内の国際活動を推進する中核的組織として1988年4月に熊本県国際交流活性化連絡協議会として発足し、その後社会変化に応じ名称を変えながら、30年目を迎えることができました。

創立30周年を記念し、2018年8月24日にホテル熊本テルサを会場に記念講演会を開催しました。

当日は本協会の蒲島郁夫会長の挨拶の後、協会会員の大津町国際交流協会、熊本学園大学、(公財)熊本YMCAの3団体から、日頃の活動状況の報告があり、その後記念講演会に移りました。

講演会では、熊本とも縁のある在福岡米国領事館首席領事のジョイ・ミチコ・サクライ氏を講師としてお招きし「海外へ渡った日本人～知っていますか? 移民の歴史～」をテーマに開催しました。

100年以上前日本人が海外移住を始め、その土地(国)で苦勞をしながら日系社会を築き上げた歴史があります。日本人の心や日本文化を次の代へと引き継ぎながら、現地の方々と共存し生活してきた話を自分の祖父母や自らの体験をもとにお話しされました。



蒲島郁夫会長の開会挨拶



講演に聞きいる参加者達

受賞した筑紫氏(右)と記念の一枚
(左から、講演者のサクライ氏、蒲島会長、原田副会長)

懇親会場の様子

講演を通じて、遠い異国の地でも日本の文化や考え方が、その土地の文化等と交わりながら生き続けていることを知り海外を身近に感じるよい機会になりました。

講演会終了後は、熊本県国際協会会員を対象に創立30周年感謝祭を開催しました。

感謝祭では、本協会の立ち上げから携わり、本協会の理事長として長年ご尽力いただき、現在では本協会の相談役である筑紫汎三氏に感謝状を贈呈しました。また、講演会講師のサクライ氏にも引き続きご参加いただき、お酒をくみ交わしながら昔話に花を咲かせたりと、会員同士の交流を深めることができました。

これからも会員団体とともに国際交流活動を通じ、多文化を理解しあえる環境づくりに貢献していきたいと思えます。

◆ 「第25回熊本国際交流祭典」 開催報告

2018年11月24日、健軍商店街にて「第25回熊本国際交流祭典」を開催しました。会場にはステージ披露をはじめ、スタンプリーが楽しめるパネルの展示やバザー、煎茶・着物・餅つき・異文化体験など様々の交流ゾーンが設けられ、世界のグルメも堪能できる多彩な催しが繰り広げられました。

当日は天候にも恵まれ、多くの方々にご来場いただき、大盛況の内にイベントを終了することができました。ご来場いただきました皆様、関係者の皆様ありがとうございました。



◆ 「肥後っ子わくわく地球教室」を開催しました！

2018年12月17日に嘉島町立嘉島西小学校で肥後っ子わくわく地球教室を行いました。

同小学校が「国際交流会」として企画し、嘉島町所属の外国語指導助手(ALT)のほか、他市町からも6名のALTが講師として協力し、ゲームや児童による嘉島町の紹介、外国の文化紹介などを通して交流しました。

アメリカ、アイルランド、オーストラリア、カナダと同じ英語を話す国でもそれぞれの文化が大きく異なることに児童たちは驚いた様子でした。

※ALT: Assistant Language Teacherの略



ALTによる文化紹介ブースで話に聞き入る児童たち

今回は、熊本県国際課のリリー・マクダーモット国際交流員にお話を伺いました。

— まず始めはルーツを教えてください。

スコットランドからカナダに移住した母と、カリブ海に位置するセントビンセント及びグレナディーン諸島国 (Saint Vincent and the Grenadines) から同じくカナダに移住した父が出会い、結婚したということで、移民のルーツを持っている典型的なトロントっ子です。

— 日本に来たきっかけを教えてください。

子どものころから日本のアニメなどのポップカルチャーや食事に興味を持ち、大学で日本語を勉強することで更に日本への関心が高まりましたが、地元を離れるのが怖く、卒業したら大学院に行こうと考えていました。しかし、その時、恩師の日本語の先生にJETプログラムを勧められ、その激励を受けて日本に行くことを決心しました。

— 熊本の印象は？

最初に勤務していた学校で、周りの若い人も年配の人も、「しよらす」や「しよんなはる」などの言葉を日常的に使っていたので、熊本弁には様々な敬語があることに驚きました。はじめは混乱しましたが、今では自分も時々使うようになりました。また、南関あげが好きです。味噌汁に入れたら、そのふっくらとジューシーな味わいがたまりません！



— プロフィール —

出身：カナダ オンタリオ州
趣味：温泉巡り
好物：帆立の握り寿司
特技：エビの殻を誰よりも速く剥ける



くまモンと一緒に

ができます。春に初めて熊本に来る両親を、まずは隠れキリシタンの歴史を持つ崎津と、南国の気分を味わえる茂串海岸に連れて行きたいです。

— 今後の抱負について教えてください。

ALT1年目の時に同勤していた先生の退任式のご挨拶で「継続は力なり」という言葉を初めて知り、続けることの重要性を再認識させられました。これからもJETプログラムで熊本に来ている皆さんに正確な情報提供を行うために、そして相談に上手に乗ってあげられるように全力で頑張りたいです。

— 休日はどんなことをしていますか？

昨年末に、27歳にして初めて運転免許を取得しました。小国、山鹿、日奈久、人吉など県北から県南まで、大好きな温泉巡りにマイカーで行けるようになり、とても充実しています！

— 熊本を外国に紹介するとしたら、ずばり何をアピールしますか？

天草ですね。先月仕事で天草に行く機会があって、同僚に十万山公園展望台に連れて行ってもらいました。目の前に広がる本渡の景色を見ていたら、熊本都心部から離れてはいますが、山もあり海もあり、程よい大きさの都市と思い、ここに住んでみたいなど思いました。天草の魚も肉も美味しく、日本一のウニを食べること



八代の鎮宅稻荷神社にて

◆ 第26回「アフリカの子どもの日」 in Kumamoto——熊本県ユニセフ協会

熊本県ユニセフ協会が毎年継続して行ってきた「アフリカの子どもの日」は、今回で26回目を迎え、2018年7月6日～7月8日に開催しました。

毎年アフリカ各国の駐日大使をはじめ日本全国から70人余りのアフリカ留学生、講演会や分科会の講師方を招待する3日間のイベントは、日本で唯一熊本が行っているものです。

今回の特長は、国連が推奨するSDGsを軸に分科会を行ったこと、高校生を中心に企画構成を試みたことで、高校生の意識が高まり積極的な活動となったことです。

今年はマリ共和国の大使をお迎えして、留学生とともに、熊本城、加藤神社、伝統工芸館の見学と水俣病語り部の講話を聞いていただきました。

県劇でのオープニングセレモニーでは、必由館の太鼓の感動的な響きに全員魅了されました。大使の基調講演「よりよい世界のための持続可能な開発：アフリカの視点から」のあと、「共に生きる未来を作ろう～SDGsを通して～」のテーマでパネルディスカッションがあり、交流会では留学生と高校生が食事を通して会話が進み、お抹茶コーナー、浴衣姿、山笠音頭、アフリカのダンス等で盛り上がりました。

最終日は、テーマに沿った10科目の分科会が開新高校や熊本学園大学で行われ、弁護士で国連「子どもの権利委員会」委員の大谷美紀子氏が「国連子どもの権利条約とアフリカ・日本の子どもたち」の題で講演され、高校生と留学生がお互いの意見交換をすることが出来ました。

ランチタイムは、アフリカ料理と日本料理のコラボで皆さん大満足でした。

留学生はホームステイ先の家族の方々といい思い出ができ、高校生はアフリカの文化や歴史、現状を知る貴重な経験となり、今年も盛沢山の中身の濃いイベントとなりました。

熊本県ユニセフ協会 運営委員 杉光 啓子



パネルディスカッションの様子



みんなで記念の一枚

◆ 繋がりを大切に ——熊本県青年海外協力協会

熊本県青年海外協力協会は、JICA青年海外協力隊の帰国隊員（以下OV）の団体です。途上国での暮らしを楽しんできた個性の強いメンバーが集まり、たくさんの人を巻き込みながら相互の交流・親睦も深めています。また、当協会では、年2回行われるJICA協力隊募集活動のお手伝いや、途上国での経験を広く普及するため、学校などへの訪問、国際関係のイベントへの参加など、より多くの方々に協力隊の魅力発信に努めています。



祭典での活動紹介ブース



総会の様子

国際交流祭典では、協力隊に興味を持ってきている若い世代が多いことにびっくりしました。1人でも多くのOVが増えると嬉しいです。

OV同士は、同じ経験を持っているというだけで初対面でもすぐに意気投合します。私たちは小さな繋がりから大切に、大きな輪が広がるように日々の活動を楽しんでいきたいと思っています。

熊本県青年海外協力協会 副会長 山崎 文美

◆ 「第11回日米協会国際シンポジウム熊本大会」 ——熊本日米協会

第1回日米協会国際シンポジウムが、1995年6月ホノルルにて開催されました。米国と日本双方の日米協会・米日協会が初めて一堂に会したこのシンポジウムでは「Learning from Each Other」をテーマに、お互いに学びあう必要性や相互の協会の連携及び理解の重要性を認識しあいました。以降、2年に1度、アメリカと日本で相互に開催されており、両国の有識者らによる基調講演やフォーラム等が実施され、毎回経済人や学識経験者、一般市民など多数ご参加いただいております。



開会挨拶をする熊本日米協会藤井輝彰会長

この度熊本にて「Looking for Global Partnership-from Local to the World-」をテーマに第11回目となる日米協会国際シンポジウムを開催いたしました。

蒲島熊本県知事をはじめ、多くの著名な方々をお招きし、基調講演やパネルディスカッションを実施しました。また、過去に類を見ない試みとして、参加ゲスト全員によるアウトドアワークショップや多数の学生スタッフの起用を実現し、より広い世代・多業種において、理解し合い、交流を深めることができた盛況なシンポジウムとなりました。

熊本日米協会事務局



パネルディスカッション会場の様子



アウトドアワークショップ・
上通でゲストと話す学生スタッフ

◆ 地域の国際交流～防災ワールドカフェIN合志～ ——合志市

2018年12月2日、合志市総合センターヴィーブルにて、防災ワールドカフェIN合志（火の国未来づくりネットワーク 菊池地域ブロックネットワーク主催）が開催されました。

このイベントは地域住民と外国にルーツを持つ人たちとの交流促進、地域防災力の向上を目的としたもので、総勢



フランシスさんは、地震時に知り合いが周りにいなくて大変な思いをしたと発表

60人が参加しました。最初に台湾出身の照喜名さんと、パプアニューギニア



会場の様子

出身で熊本大学留学生のフランシスさんが熊本地震発生時に苦労したことや地域コミュニティの大切さなどを発表しました。その後、防災食と日本食（手巻き寿司・お好み焼き）の昼食を皆で囲みながら交流を深めました。

合志市役所 企画課

◆ 2018年度「能楽ワークショップ」について——熊本ユネスコ協会

2019年2月11日に、くまもと県民交流館「パレア」において外国人の留学生や外国語指導助手及び国際理解教育関係者を対象に日本の伝統文化の理解を目的として、能楽ワークショップを実施しました。

2008年にユネスコ無形文化遺産に登録された能楽は、日本が誇る伝統芸能の一つです。当日は、高校生ボランティア5名を含めた約40名が参加し、能の解説、すり足（運び）の体験、能面の解説、装束着付けの体験をしました。



狩野先生を中央にすり足体験

「能面を実際につける機会など普通はないので、貴重な体験だった。実際につけてみると視界が正面の一部のみに限定され、普段どれだけ多くの情報を目で見て生活しているかを実感しました。また、鬼の面が女だけに角があるということを知って女の人が怒ると角が生えて鬼の形相になるというイメージを600年以上前の人たちも持っていたのだなと思いました。日本人として日本の伝統文化を学ぶことができ、嬉しく思います。本日は本当にありがとうございました。」と、今年度からボランティアとして参加した高校生は感想を述べてくれました。



装束着付け体験

また、装束体験をした女性からは、「面をつけると視界が狭く、衣装を着けると重くて暑い。この状態で狭い舞台で演じることは、相当難しいことだと思った。また、装束をつけたら、能の世界に引き込まれるような不思議でスピリチュアルな感じになった。」という感想もありました。

最後に、講師である喜多流喜秀会代表の狩野了一かのりょういち氏による「仕舞」の実演もあり、参加者全員が幻想的で奥深い「能」の世界を堪能しました。

熊本ユネスコ協会 事務局



装束着付け体験2



お知らせ

国際相談コーナーについて

熊本県国際協会の国際相談コーナーでは、在住外国人対象に、面接、電話、文書による法律、労働、結婚、教育、その他生活全般についての相談を受け付けています。また、県民の皆さんも、国際協力・国際交流などについてのご質問がありましたら、お気軽にお電話ください。

【対応言語】 日本語、英語、中国語、韓国語、スペイン語
【対応時間】 平日9:00~17:00
【お問合せ先】 Tel 096-385-4488 Fax 096-277-7005

事業名	開催日時・場所	事業内容	問合せ先
ハワイアンフラ・ タヒチダンス公演	2019年4月21日(日) 13:00～16:00 熊本県立劇場演劇ホール	第20回を記念して、ハワイから タミーシルバさんをゲストに迎えて 交流。入場無料	ピカケスタジオ 井上 敏雄 096-343-1510
第21期市民講座 「ハイクロスの祈り:ケルト(ア イルランド)の品格」 http://www.kumamoto-ireland.org/	2019年5月25日(土) 14:00～15:30 ㈱お菓子の香梅帯山店 ドゥ・アート・スペース	「アイルランド文芸復興;詩人 イエイツの心」西川盛雄氏 熊 本大学名誉教授で講座を開講し ます。	熊本アイルランド協会 笹原 元子 096-366-5151
	2019年6月22日(土) 14:00～15:30 同上	「アイルランド音楽の世界」本間 康夫氏 崇城大学名誉教授で 講座を開講します。	
	2019年9月28日(土) 14:00～15:30 同上	演題「調整中」高木朝子氏 熊本高専熊本キャンパス 准教 授で講座を開講します。	
	2019年10月19日(土) 14:00～15:30 小泉八雲熊本旧居	演題「調整中」坂元弘敏氏 小泉八雲熊本旧居館長で講座を 開講します。	
	2019年11月30日(土) 予定 14:00～15:30 ㈱お菓子の香梅 帯山店 ドゥ・アート・スペース	演題「アイルランドの地理」 八田茂樹氏 熊本高専熊本キャン パス名誉教授で講座を開講し ます。	
	2019年12月7日(土) 14:00～15:30 同上	演題「ハーン作品の朗読」斉藤 幸子氏他 石路の花の会で講座 を開講します。	
第27回アフリカの子どもの日 in Kumamoto http://www1.odn.ne.jp/unicef-kumamoto/	2019年7月6日～7日 県立劇場、熊本学園大学等	熊本とアフリカの若者が、お互いの 文化や歴史を学び、課題を共有し 理解を深めあい、未来を共に 生きることを目指す。	熊本県ユニセフ協会 古閑 幸世 090-1972-6662
第29回国際教育のための夏季 研修会	2019年8月中旬 フードパル熊本	世界のいろいろな国々での教育 活動や体験活動にふれる研修 です。	熊本県国際教育研究会 北原 史善 090-3072-2539
王栄国際交流バザー http://sirakawakyokai.com/	2019年10月26日(土) 10:00～14:00 熊本白川教会 熊本市中央区九品寺2-2-44	国際交流の一環として、たくさん の物品、衣類の販売。また、お食 事コーナーもあります。	王栄国際交流委員会 森 真樹子 096-363-4315
国際交流クリスマス・イブ・パ イプオルガンコンサート http://sirakawakyokai.com/	2019年12月24日(火) 19:00～20:30 熊本白川教会 熊本市中央区九品寺2-2-44	音楽を通して、本当のクリスマス を外国から日本にいらっしゃっ ている方々と共に楽しみましょう。	

広報誌「VOICE」の編集委員

上村勝代(熊本市北部国際青年交流会)、神保勝己((公財)熊本YMCA) 草壁克己(崇城大学)、杉光啓子(熊本県ユニセフ協会)、谷口博通(熊本ユネスコ協会)、藤門豊明(熊本アイルランド協会)、毛利秀士(熊本むくげの会)、協会事務局